

## 笠縫学区まちづくり協議会 設立趣意書

我々の笠縫学区は、草津市の西部に位置し、草津駅近くから琵琶湖岸までの農地と住居が混在する地域です。

古くは、弥生時代の遺跡も見つかっており、2000年を超える歴史ある街です。笠縫の地名は、豪族「笠氏」がこの地を治めたことに由来するとも伝えられています。最近では学区再編等を経て、今日では下笠地区の田園地帯と、野村・上笠を中心とする住宅地が見事にバランスを保ち、ベッドタウン・穀倉地帯として発展を続けています。

とりわけ、昭和40年代からの発展は、目を見張るものがありました。この間行政がまちづくりを担ってきたのではないのでしょうか。

今日的には、言われて久しい、少子・高齢化の進行、人口減少社会の到来、世帯構造の変化、地域のつながりの希薄化や、地方分権の進展と財政規模の縮小・硬直化などに代表される地域の課題があります。

このような中、身近なところでは、町内の役員の担い手不足や地域活動に関心を持たない、関心があっても事情があって参加できないなど、地域のつながり・絆が希薄化している傾向があるのではないのでしょうか。

こうした現状の中、市民ニーズ・学区民ニーズに対応することが困難になることが予想されます。

このことから、今後は地域と市が互いに知恵を出し合い、力を合わせ、協働のまちづくりを進めていくことが大切なこととなります。地域では、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもと、地域ぐるみでまちづくりを行う「まちづくり協議会」を設置し、その活動を通じて、さらに住みよい地域に向け課題などを解決し、「住んでよかった」、「住みたい」まち「笠縫」にしていくことが重要であると考えます。

まちづくり協議会は、地域内の課題の解決が迅速にでき、住民自治の具現化や、地域住民の連帯感の醸成等が期待でき、安心して暮らせる地域社会の構築に貢献するものです。具体的には、各種行政分野（福祉・環境・防災等）の枠を超えて、地域全体のことをみんなで考え、その共通の目標に向かって協働して取組む、その役割を担うのです。

また、この協議会には規約を設け、規約に基づき事業計画や予算を作成し、総会等で同意を得て決定しますので、民主的で透明性のある組織運営となります。

この取組みは、笠縫学区においては初めてであり、従来からの仕組みと変わることとなりますが、「住民自治」や「協働」の考えの視点に立ち、「自分たちの地域は、自分たちで」をモットーに、よりよい地域にするために、笠縫学区まちづくり協議会を設立しようとするものであります。